

科目名	小児看護学概論		履修年次	1 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 (30 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 健康な子どもの身体的・心理的・社会的特徴をとらえ、保健・医療・福祉・教育における小児看護の役割と機能について理解を深める。</p> <p>目標: 1 小児看護の特徴と役割を理解できる。 2 子どもの成長・発達を理解できる。 3 子どもの身体的・心理的・社会的特徴および養育と看護を理解できる。 4 子どもを取り巻く社会を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単元	時間	内 容		方 法
1 小児看護の特徴と理念	2	1 小児看護の特徴と理念 (1) 小児看護の対象 (2) 小児看護の目標と役割 (3) 現代の小児医療と看護 2 子どもと家族の諸統計 (1) わが国の人口構造 (2) 出生と家族 (3) 小児の死亡 3 小児看護における倫理 (1) 倫理原則と医療現場でおこりやすい問題点		講義
2 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	4	1 入院中の子どもと家族の看護 (1) 入院体験と子どもへの影響 (2) 入院環境と看護の役割 (3) 入院中の子どもと家族の特徴 (4) 入院中の子どもと家族の看護 2 外来における子どもと家族の看護 (1) 外来の環境と看護の役割 (2) 外来受診する子どもと家族の特徴 (3) 外来における子どもと家族の看護 3 在宅療養中の子どもと家族の看護 (1) 在宅療養の環境と看護の役割 (2) 在宅療養中の子どもと家族の特徴 (3) 在宅療養中の子どもと家族の看護 4 災害時の子どもと家族の看護 (1) 被災地の環境と看護の役割 (2) 災害時の子どもの看護の特徴 (3) 災害時の子どもと家族の看護		講義
3 子供の成長と発達	4	1 成長・発達の定義 (1) 小児看護における発達論 (2) 小児期の発達段階の区分 (3) 発達の領域 2 成長・発達の進み方		講義

		<ul style="list-style-type: none"> (1) 方向性、順序性 (2) 発達の時期 (3) 成熟と学習 3 成長・発達に影響する因子 <ul style="list-style-type: none"> (1) 遺伝的因子 (2) 環境的因子 4 成長・発達の評価 <ul style="list-style-type: none"> (1) 成長の評価 <ul style="list-style-type: none"> ア 身長・体重 イ 頭囲・胸囲 ウ 生歯 エ 骨の発育 (2) 発達の評価 <ul style="list-style-type: none"> ア 発達スクリーニング検査 イ 知能指数・発達指数 ウ 発達評価法 	
4 健康な子どもの生活と養護	12	<ul style="list-style-type: none"> 1 子どもの栄養の意義 2 発達段階別の子どもの栄養の特徴と養育 <ul style="list-style-type: none"> (1) 乳児期の栄養と離乳 (2) 幼児期の栄養 (3) 学童期・思春期の栄養 3 新生児・乳児期の子ども <ul style="list-style-type: none"> (1) 身体的・心理的・社会的特徴と養護 4 幼児期・学童期の子ども <ul style="list-style-type: none"> (1) 身体的・心理的・社会的特徴と養護 5 思春期・青年期の子ども <ul style="list-style-type: none"> (1) 身体的・心理的・社会的特徴と養護 	講義
5 子どもと家族を取り巻く社会	7	<ul style="list-style-type: none"> 1 子どもにとっての家族 <ul style="list-style-type: none"> (1) 家族の定義 (2) 現代家族の特徴 (3) 家族アセスメント <ul style="list-style-type: none"> ア 構造的側面・機能的側面 イ 家族発達の段階 ウ 家族の役割 エ さまざまな家族の状況 2 子どもをめぐる法律と政策 <ul style="list-style-type: none"> (1) 児童福祉 (2) 予防接種法 <ul style="list-style-type: none"> ア 予防接種と法律 イ ワクチンの種類と接種間隔 ウ 接種不相当者・接種要注意者 エ 予防接種の副反応 (3) 学校保健 <ul style="list-style-type: none"> ア 学校保健の意義と行政 イ 学校保健安全法 ウ 学校保健の現状 (4) 特別支援教育 (5) 臓器移植法 (6) 医療費の支援 	講義
試験	1		

評価方法	筆記試験
必須資料 (テキスト)	系統看護学講座 専門分野 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院) 看護のための人間発達学 (医学書院) 公衆衛生がみえる 2024-2025 (メディックメディカ)
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。
履修上の 留意事項	・本科目は、准看護師課程で学習している「母子看護」を既修学習として、積み上げる学習科目である。既修学習内容を復習のうえ、授業に臨むこと。 ・母性看護学や小児看護学実習Ⅰにつながる科目のため、予習のうえ、授業に臨むこと。 ・積極的な学習姿勢を望む。

科目名	小児看護学方法論 I		履修年次	1 年次
科目区分	専門分野	単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
目的: 子どもの健康障害の特徴と治療の理解を深める。				
目標: 1 子どもの健康障害の症状と治療を理解できる。				
授 業 計 画				
単元	時間	内 容		方 法
1 子どもの健康障害	14 (2)	1 子どもにみられる主な健康障害の病態・症状とその治療 1) 染色体異常をもつ子ども (1)常染色体異常;ダウン症候群 (2)性染色体異常 2)低出生体重児の疾患の症状と治療 (1)脳室内出血 (2)呼吸窮迫症候群 (3)未熟児網膜症 3) 代謝・内分泌系に障害がある子ども (1)先天性代謝異常 (2) I 型糖尿病 (3)周期性嘔吐		講義
	(10)	2 子どもにみられる主な健康障害の病態・症状とその治療 1) 免疫疾患・アレルギー疾患の子どもの症状と治療 (1) 食物アレルギー (2) 気管支喘息 2) 感染症の子どもの症状と治療 (1) ウィルス感染症 (麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、突発性発疹、急性胃腸炎) (2) 細菌感染症(ジフテリア、結核、溶血性レンサ球菌) 3) 呼吸器疾患の子どもの症状と治療 (1) 気管支炎 (2) 肺炎 4) 循環器疾患の子どもの症状と治療 (1) 先天性心疾患(ファロー四徴症、心室中隔欠損症) (2) 川崎病 5) 消化器疾患の子どもの症状と治療 (1) 形態異常のある疾患 (口蓋裂・肥厚性幽門狭窄症・鎖肛・胆道閉鎖症) (2) 小腸・大腸の疾患(ヒルシュスプルング病、腸重積症) (3) 腹膜・腹壁の疾患(鼠径ヘルニア、陰嚢水腫) (4) 急性胃腸炎(ロタウイルス) 6) 血液・造血器疾患の子どもの症状と治療 (1) 白血病(骨髄移植・幹細胞移植) (2) 血友病 (3) 血管性紫斑病		講義

1 子どもの健康障害		<p>7) 血液・造血器疾患の子どもの症状と治療</p> <p>(1) 白血病(骨髄移植・幹細胞移植)</p> <p>(2) 血友病</p> <p>(3) 血管性紫斑病</p> <p>8) 腎・泌尿器疾患の子どもの症状と治療</p> <p>(1) 糸球体疾患(ネフローゼ症候群)</p> <p>(2) 急性腎障害</p> <p>9) 神経疾患の子どもの症状と治療</p> <p>(1) 神経系の先天異常(癒合不全症・神経管閉鎖障害、水頭症)</p> <p>(2) けいれん性疾患(てんかん、熱性けいれん)</p> <p>(3) 脳性麻痺</p> <p>(4) 急性神経疾患(髄膜炎、脳炎)</p> <p>10) 皮膚疾患の子どもの症状と治療</p> <p>(1) アトピー性皮膚炎</p> <p>11) 精神疾患の子どもの症状と治療</p> <p>(1) 発達障害</p>	講義
	(2)	<p>3 子どもにみられる主な健康障害の病態・症状とその治療</p> <p>1) 運動器疾患の子どもの症状と治療</p> <p>(1) 発育性股関節形成不全(先天性股関節脱臼)</p> <p>(2) 先天性内反足</p> <p>(3) 先天性筋性斜頸</p> <p>(4) 脊柱側弯症</p> <p>(5) 骨折</p> <p>(6) 成長痛</p>	講義
試験	1		
評価方法	筆記試験		
必須資料 (テキスト)	系統看護学講座 専門分野 小児看護学② 小児臨床看護各論 (医学書院)		
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。		
履修上の 留意事項	<p>・予習のうえ、授業に臨むこと。</p> <p>・小児看護学実習につながる科目のため、積極的な学習姿勢を望む。</p> <p>・授業の後は復習しておくこと。</p>		

科目名	小児看護学方法論Ⅱ		履修年次	1 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 (25 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 子どもの健康障害に応じた看護を理解するとともに、子どもの特徴を踏まえて適用される基礎的看護技術を習得する。</p> <p>目標: 1 健康障害のある子どもと家族に必要な看護を理解できる。 2 子どもの健康障害時に適用される看護技術を習得できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 健康障害のある子どもと家族の看護	12 (2)	1 先天異常のある子どもと家族の看護 【染色体異常】 (1) 診断の告知を受ける家族への支援(家族の疾患の理解と受容) (2) 日常生活の指導 (3) 合併症と健康管理 2 低出生体重児と家族の看護 (1) 子宮外生活への適応の促進 (2) 成長・発達の促進 (3) 家族の支援		講義
	(2)	3 感染症の子どもと家族の看護 【ウイルス・細菌感染症】 (1) 急性期の看護 (2) 回復期の看護 4 代謝性疾患の子どもと家族の看護 【1型糖尿病】 (1) 入院中の看護 (2) 退院後の療養生活支援		
	(2)	5 循環器疾患の子どもと家族の看護: 【ファロー四徴症】 (1) 無酸素発作の予防 (2) 心臓への負担軽減 【川崎病】 (1) 急性期の看護 (2) 回復期の看護 (3) 疾患の経過に伴う継続看護(経過観察時の家族支援)		
	(2)	6 免疫疾患の子どもと家族の看護 【気管支喘息】 (1) 日常生活の援助 (2) 自己管理の促進 7 消化器疾患の子どもと家族の看護 【急性胃腸炎】 (1) 清潔ケアと感染予防 (2) 家族への指導 8 腎・泌尿器疾患の子どもと家族の看護		

		<p>【ネフローゼ症候群】</p> <p>(1) 感染予防</p> <p>(2) 日常生活の援助</p> <p>(3) 退院後の生活調整</p> <p>(4) 家族への指導</p>	
	(2)	<p>9 造血器腫瘍の子どもと家族の看護</p> <p>【白血病】</p> <p>(1) 診断告知を受ける対象への看護</p> <p>(2) 日常生活の援助</p> <p>(3) 退院後の生活調整</p> <p>(4) 再燃時の看護</p> <p>(5) 苦痛・死に対する不安の緩和</p>	
	(2)	<p>10 けいれんのある子どもと家族の看護</p> <p>(1) 服薬の支援</p> <p>(2) 発作の誘因の除去と健康管理</p> <p>11 障害のある子どもと家族の看護</p> <p>(1) 心身障害の定義と種類</p> <p>(2) 家族と子どもの障害受容</p> <p>(3) 重症心身障害児と家族</p> <p>(4) 医療的ケアを必要とする子どもと家族</p> <p>(5) 発達障害児と家族</p> <p>12 子どもの虐待と看護</p> <p>(1) 虐待の定義と特徴</p> <p>(2) リスク要因と発生予防・早期発見</p> <p>(3) 虐待を受けた子どものケア</p> <p>(4) 親に対するケア</p>	
2 子どもに適用される看護技術	12	<p>1 子どものヘルスアセスメントに必要な技術</p> <p>(1) コミュニケーション</p> <p>(2) バイタルサイン測定</p> <p>(3) 身体計測</p> <p>2 子どもの安全に関する看護技術</p> <p>(1) 発達に応じたプレパレーションの実際</p> <p>(2) 事故防止のための工夫：ベッドからの転落防止</p>	講義
	(2)	<p>バイタルサインの測定と身体計測</p> <p>ベッドからの転落防止</p>	演習
	(2)	<p>3 主な検査・処置に伴う看護</p> <p>(1) 子どもにとっての検査・処置体験</p> <p>(2) 主な検査・処置に伴う看護</p> <p>ア 尿の採取方法</p> <p>イ 採血時の子どもの支え方</p> <p>ウ 腰椎穿刺・骨髄穿刺に伴う介助と観察</p> <p>エ 経管栄養</p>	講義
	(2)	<p>採尿パックの貼り方 小児の採血時の支え方</p> <p>腰椎穿刺・骨髄穿刺時の体位の固定</p>	演習

	(2)	(3) 薬物療法(与薬)の看護 ア 与薬の方法と看護 イ 注射時の体位の固定と注意点 ウ 輸液の管理方法と抑制 (4) 呼吸症状緩和の看護 ア 酸素投与方法の特徴 イ 吸引 ウ 子どもに適した方法の選択(酸素テント)	講義
	(2)	採血時の支え方と腰椎穿刺・骨髄穿刺に伴う体位の保持 輸液の固定(シーネ固定)と抑制	演習
試験	1		
評価方法	筆記試験		
必須資料 (テキスト)	系統看護学講座 専門分野 小児看護学② 小児臨床看護各論 (医学書院) 写真でわかる小児看護技術 アドバンス (インターメディカ)		
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。		
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、准看護師課程で学習している「母子看護」を既修学習として、積み上げる科目である。既修学習内容を復習のうえ、授業に臨むこと。 ・また、本科目は、小児看護学実習につながる科目のため、積極的な学習姿勢を望む。 ・演習は小児特有の看護技術のため、授業資料やテキストを予習のうえ、授業に臨み、積極的な態度で参加すること。 ・授業の際は、小児看護学方法論 I (疾患の治療)の授業を復習のうえ、授業資料を持参して臨むこと。 		